



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学：昭和28年度特殊講義案 第4巻 第2号
Author(s)	鈴木，栄太郎
Description	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。郊外（ツヅキ）、市域決定調査項目）、都市の群衆、贈答救済の関係。
Issue Date	1953
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77408
Type	manuscript
File Information	N005_01S28.pdf



SUPERIOR NOTEBOOK
MADE FROM FINEST PAPER

都市社会学

二ノノノ
寺子屋、葛西、富
才四、才二号

交野外(ツ)市域(未定)老項(1)
都市の発展
経済政策の(1)件



独立行政に特殊である。市内の
島はもとより、社会関係の集積体にも
ならないが、郊外には常に集積体として
存在して、今もその根柢をなしている。
この郊外の特殊性がある。

けれども、都市の外、国にある可成
る都市は独立した集積体として存在
する。独立した生活共同体をなしている。
市域と郊外との境界を劃する事は
不可能であらう。社会関係の方向の異
なり、集積体の違いであり、社会的な実
質の異なるものである。

生活協同組合の決定のための調査項目を定めておく必要がある。この項目については、ラバー・フット・スリッパの決定の場合と同様に戸別調査することとする。

一、あなたのこの住宅は行政上の市町村に属するか。

（公式上少し別扱いになる）

一、行政上の規定を不便を以て他の市町村に便渡上同化する必要があるかどうか（供の必要のありなしについて）。

一、左の商品はいくつ買収し、未だあるか。

米、味噌、醤油、野菜、肉、魚、

酒

パン、バター、茶、電気、煤、ガス、

（うどん）

薪木灰、マツノ、洗石炭、セキ炭、

著、ナリ紙、草、ホリキ、道具、求具

以下同様、人として同じ性質のものもある。

一、医、同、牛、記、散、友、あ、見、名、大、工、墨、名、

一、子供、の、よ、勤、め、先、教、育、し、ク、ラ、フ、

一、教、育、娯、米、の、め、に、行、く、先、映、画、館

一、不幸、の、来、て、く、れ、た、人、の、住、居、ハ、ル、フ、オ、ど、こ、の、人、カ、

一、一ヶ月、回、の、来、寄、来、後、の、各、人、に、送、る、よ、

一、所、々、足、は、い、こ、に、行、く、電、報、の、精、神、を、は、つ、

一、衣、孔、は、い、こ、に、行、く、本、は、机、は、常、に、

一、あなた、の、行、く、よ、れ、勤、め、先、教、育、に

一、集、まり、人、は、大、抵、こ、の、人、い、は、

一、近、所、の、人、達、は、命、を、換、取、し、て、居、る、か、

一、親戚はどれくらい、行方事をする親戚
はどうか。この地に住んで何年になるか

一、非常に親しい友人があるか、どこに、
どうして知ったか。

一、この放逐者のうち、何を最もよく同くか、
どの親戚をとつて居るか。

一、お前を放逐回を答へに、より生活か、どの親戚
の店などの親戚のしつか、よく方々と思ふ。部
外と郊村では自か、相異なある。

一、都市の周辺における生活の存在関係と
周辺における生活関係の独立、親
戚はどんな調査して、暇に仕あかす。

○ 附録に於ける都市的・農村的

凡そ人の生活過程は物或はモノとしての

需要、代償、生産の過程である。これは

水、土、空気、日光、熱、力、時間、労力、

金、貨幣、代償、生産の過程である。これは

近代の都市に於ける生産過程である。これは

近代の都市に於ける生産過程である。これは

近代の都市に於ける生産過程である。これは

近代の都市に於ける生産過程である。これは

近代の都市に於ける生産過程である。これは

近代の都市に於ける生産過程である。これは

近代の都市に於ける生産過程である。これは

多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

が多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

が多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

多い。喜ばれた物に物を贈るが、場合

返神とそれと上と下と

女自かうな。感謝の表紙の形式化して

ものであろうか。返神を形式化

レエ、都市で感謝の心は

余りなした。返神に山場の羽衣

や南天の葉を田舎の羽衣

感謝の心か強一

よく字の横印はあるか。返神の

横印は形式的である。然し形式的

にしても返神の横印があるのはどうか

素直の二あうりわ。予て返神を最終

に行ふ時代あるとは云へぬな。

返神と云ふ。金と云ふ。白紙と云ふ。

うすところあるのは、都市から来る

流行の遺物である。付はつた

物母の者か。都市より田舎へ移る

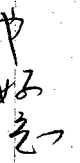
物、あるところからあるところへ

移へれば、返神の形式も都市から

流入する。横印もなつかぬ。

◎人のつゝ物では公認された者
務の経団内においてもプロもあ
れはマイナスイメージを都市の
人はよく知って見よう。それと
減てまよ。

串をぬき医者に物を贈るのは感謝の
場合もある。又医者のサービスも
減心減意である事を求むるものである。#
受けとる医者のサービスの減心減
意にならう。あるいは予てからである。
にも拘らず医者のサービスも期待程
でない。考えた場合には患者は奴隷
である。彼と自分と対等の人間で
あるのに彼に贈り物をしたのにそれだけ
のサービスはない。あるいはある。
医者に感謝して贈り物をしたのは医者に
なすべき職業以上のサービスは自分の



無く玉へはワイロであり、よく玉へは
新の多持ちの茶器である。
新の多持ちの茶器である。
新の多持ちの茶器である。

調
整
官
に
対
し
て
時
に
好
ま
い
く

[illegible]

に
そ
う
い
ふ
と
、
そ
の
心
の
あ
い
わ
れ
か
、
マ
ン
ト

となつたりはけとなつたりす。
 人同のんか、機械のおん常々、最になく
 好むや、無きものの中、加減が、書物の内

に
御
方
、
同
心
付
け
は
ま
る
の
う
え

の赤ん坊を抱いて赤ちゃんなら、あんな

その知人の字か、う葉子籍を以て葉子

これは純粋の詩體といふ。此なり。

國の方よりあつたしきつて將來にわたる

朴
 年
 の
 如
 き
 勤
 ば
 す
 り
 か
 父
 知
 ら
 ぬ
 べ

すゝめ神は都市の生活に少い

330

[illegible]

の相
異を
とあ
しめ
たし
の正
便

の読部とくに因定故にはなるといふ

思ふ又生活の單純を

新七五二

帝

一合とし、作らば、
すゝとあかき、
物ぐす、
今も昔も

他人の新断によつて行はれ、のん

対して中おにけれ、断るは捨行か

他人の新断に先立つて。他人に

中おては、^{字の力に}度了、あふん、^たたす

可なる、^{字の力に}上、中、^{字の力に}並、^{字の力に}其、^{字の力に}を

断定は捨行か、都へて。よ。

都へて、^{字の力に}上、^{字の力に}中、^{字の力に}並、^{字の力に}其、^{字の力に}を

他人の新断は、優先的、^{字の力に}と

は、^{字の力に}と。

都へて、^{字の力に}上、^{字の力に}中、^{字の力に}並、^{字の力に}其、^{字の力に}を

多、即時、^{字の力に}上、^{字の力に}中、^{字の力に}並、^{字の力に}其、^{字の力に}を

思、^{字の力に}上、^{字の力に}中、^{字の力に}並、^{字の力に}其、^{字の力に}を

我、^{字の力に}上、^{字の力に}中、^{字の力に}並、^{字の力に}其、^{字の力に}を

都、^{字の力に}上、^{字の力に}中、^{字の力に}並、^{字の力に}其、^{字の力に}を

都、^{字の力に}上、^{字の力に}中、^{字の力に}並、^{字の力に}其、^{字の力に}を

いあう。子実その独立は破たない
いあう。いし物いす生活協同作の既
急は更々重要なり。必要あり。

生活協同作の輪廓と都市の境を
てあふ。これか不協同作と云ふは都市を
いふは不協同作なり。

外部

都市景観区分等

都市の景観を構成する建築物は項
の略称である。

一、住宅（独立住宅、長屋、密集住宅、アパート、上級、中級、下級住宅）

二、職場・官造物（工場、役所、銀行、学校、

アパート、商店）

三、公衆を造物

（屋外設備）

四、娯楽・休息のためのもの（公園、球場、

競馬、競輪場、広場）

五、交通のためのもの（鉄道、自動車道、橋、

河川、堤防、飛砂防、

ハ、娯楽休息のみの屋内設置（学校

図書館 劇場、公衆電

病院）

以上の取組の仕方では一と二が大部分で

三は殆ど同じになり、その公衆利用度の

高いのが市民生活には強い関心の対象となつて

居る。けれども都市景観の上では三は数ある

上に多くは散在して片々が主要なものはなれぬ。
（景観上この基礎となる）

景観の意味は重要な内矢張住居と職

業。従来試みられて来た景観区外を以て

住居及び職場によつて区分つけられて居る。

上流住宅地、中流住宅地、下流住宅地は従

官衙地帯

居郷の種類地は分れてあり、工場地帯、高

業地帯、は職地によ。又、オビ、又、街、高

店街、銀行街、~~高~~職地によ。又、分てあり。

凡そこれ等の地は又、分てあり。又、分てあり。

に集ま、てより、又、分てあり。又、分てあり。

格式、又、規模のもの、又、分てあり。又、分てあり。

集ま、て人々の、~~別~~装、又、分てあり。又、分てあり。

又、分てあり。又、分てあり。又、分てあり。

又、分てあり。又、分てあり。又、分てあり。

又、分てあり。又、分てあり。又、分てあり。

又、分てあり。又、分てあり。又、分てあり。

又、分てあり。又、分てあり。又、分てあり。

居住する事は、色々の不利や不便がある
能はる圧力がある、つまり永住出来なくな
るのである。上流住宅地帯の一戸の下級市
民の住居住居も同様に去くは出来なくな
るのである。

都市の御強めに於ける生活には、貧乏もなく
富もなく皆一杯に、其時其場の力に依り
て自由に對面して居るのであるが、都市の
市民は其生活の結果に於ては、もうそ
んな自由もなくなってゐる。

同一社会階層の者の住宅地帯は、其の中
外に異味多きは、大企業家の住宅街

家蘭の
北安街
佐治君卒後

である。本来大企業家の北安街はその
企業主か、一は職員の所す経営主系
のため、一は企業能率の向上のため
に努めたいのである。故に企業を例す
の如きは、世のため又生活改善のため
に色々の新機軸の発明を企てて来る。
家蘭の北安街の係を乞ふ。
高知佐治街に於ける生活にもたか
一つの困難をかゝる。高知佐治街に
塀が互いに一城を構へ、互いに各々深く
秘められた生活の如く、かくれて居る。やが
をねぬ近隣の交り、互いに女中を

同志

同志

通いつくを運ぶ、主人はおろか、奥の方まで
至るに接する。と云ふ事は、寧ろ滑稽で
ある。この界隈にはたゞかに一つのやんちゃか
有し、門構に此形式こそ異つても其趣はな
のかある。

すべし、使居也、帯に配ける、相違は此の
層にしろ、つく相違ある。

勤勉な中、高き志、其志と住居を
一つにして居る活動的な地帯に、一つの村
殊のふんいふある。商店とこの構へや
未だ、よつて混雑する、畫同のふんいふも
特色を、よつて、朝早く又日か、夜まで

この地域にも高層住宅の住居地としての
特色がふんいつて居る。住居の小
店員を多量に持つが、男児にはこれ
等の住居小商店のつくり出しは、知識的
な空氣をもつて居る。

富の積累が、さうすは、高層住宅は、サリマンの
中位又はそれ以上に相対するであろうが、生
活程度は、むしろサリマンはより高である。
同一収入の点でみれば、商人より
役人は生活程度は高である。職業
の相異が、人々の生活の形を異ならしめて
行くのである。故に都市景観を

職の異同にもよるのみである。工業地帯、商業地帯、官庁街地帯、遊樂街地帯がそれである。これ等の地帯もそれぞれ異なる建築物によつて一足して相違が分るを考へ、それ等の分るを構成して見る人の取扱にもそれ等分る特色を認ければ、職の相違も人の生活様式を制するものは、質の相違がさうすものと同様である。それ等の地帯における人の生活は職にあつては、然るを要請するものである。都市には群衆形成の場所が多ね

有るが、オラス街における群集と
工場地帯における群集とは異なると
いふことも出来る。都市住民の住宅
は一面の一面の他人の住宅である
は街頭における群集の同じである。
かゝる住宅住宅は、街頭は
停車場店場とか都市部、華街に
おける群集である。住居地帯や
官庁街に形成された群集ではない。
即ちその群集の大部分が市民の住宅
くむる他地人、旅人によつて形成され
る。群集である。しかし都市をもつと

學智は

も代表しやすく群集であつてその群
集は旅人による群集である。けれども
市民の内でも他の自分の居る居住又
は職業による地帯の外の地帯にな
れば、市民も旅人の安んずるを感ずる。
かくやく他地帯の市民も集まる。
群集は旅人等の群集と同様格の
ものとなるやうである。と云ふことは地帯の
制がとるものから都市の位置から
やはり幾分傷くものであるを意味する。
要之都市の景観区別の整理をなさ
るは、居住と職業とをより、居住にも

サートと云ふ名に別れ。かくて都市は次の
七種の地区に分れさす。

一、上級住宅地帯

二、中級住宅地帯

三、下級住宅地帯

四、工場地帯

五、オフィス地帯

六、商店地帯

七、サートと云ふ業地帯

(職人)
(工業地帯)

都市内において
集令して一つの特色ある地区を構成するものは

右の外には余りない。又、
他のよき。他、
集令し

と云ふ集令しあつて、それは特色ある一地区を構成

成す。殺量の^のを^を知^はんは遠^はなり^てあらう。

都市の群集

一、概要

定常的集合場所としての定常的集合場所

二、概要

定常的集合場所としての定常的集合場所

三、人の移動

市民、旅人、

青年

子供、女、成年

四、組織

北組織

五、目的

一致不一致、明不明

群集の一、時、二、居、三、量、四、能、五、

群集の調査の沿革

（実證的都市研究の概略）

左記の調査結果を要約する。

- 一、群衆の人心の何處か市外の人
二、何處か市内の人
三、何處か市外の人
四、何處か市内の人
五、何處か市外の人
六、何處か市内の人
七、何處か市外の人
八、何處か市内の人
九、何處か市外の人
十、何處か市内の人

都の群集

借成月字のまゝ人々

群衆に目的共同の非不平等の差を改め

21
 12
 48
 の
 4
 の
 10
 1
 か
 あ
 よ

電燈料佔上什及對市民大厚心每集主

決議に
加へ
そのまゝ
テそ
解決
に
かゝ
は

人にも群集であるが、映画館

坊に集めて
 同様に大に
 少に大に少

片。改著也。群。集。下。安。入。學。試。驗。成。

鑄
榮
和
乙
以
以
來
乙
戶
日
人
ル
ル
群
集
乙

あ、
でも、
共同目的の不明確な場合

あ、
即ち
あゝ
あゝ
テ
パー
ー
の
三
percent

中居全七ノ片人
人、同イ歌
由一
流

群集、
既知の
人々
――
村落の
中心

足
未
知
の
人
に
一
都
市
の
人
を

A
平
和
的

B
1 同音的

各事は2のBの4を同様に4した

第 4 号

群衆は人の世の復讐ではない。集金に
ふた味あり。ニーフアツシの女婦人達が銀座
の群衆に加へたい心現、人に与せたい心現
御女は群衆あつたか。牛乳す。

従来の群衆心理は雷同の心理のみを以て
 してゐた。群衆を指導する者は群衆心理
 の研究は群衆に加へるたゞに親群衆
 中にあるものにもかへて研究するべきである。

2
4
12
2-
5

この都市の群衆の望をすべし

一、毎
日
五
時
の

一、每团
又11
每月
又11
每年
定时
11
11

St. Louis

一、不定时に突発的に発生する。

史
画
蹟
毎
日
群
衆
の
聲
を
し
神
に
お

千

仍然の群集は年一回散序には毎日の

に、毎月の月給は、又はそれ以上に期せずして

臨江府志

形成する片と群集とありあり

火
丁
集
了
群
集
は
不
定
能
な
す。

そんな人な種族の人を集合すか、
知ふべき場合あり。然し今その人の
構成について考へてみる。

一、年齢階級別による群集

二、職業による群集

三、完全^{人口}に制限又は傾向なき群集

四、居住地区による群集

紙芝居の集まり。群集は、供養である。お節
岸にお寺に集まって、お寺の主人として老人時に
老婦である。けれども、^{一般}他の群集には年齢の
制限や傾向はない。然し都市にあるお寺は、
群集に最も多く見られるのは青年である。

カフェーにも図書館にも教室にも球場にも
も一層多いのは青年である。統計的に年
々上に青年は都市を以て目立って居る。
メーデーのデモ隊には工場労働者が多いが、
その他の都市の群集には職業による特色
は乏しく、幾分富の上下が群集の
能率に影響して居るかも知れぬ。高知率を
カネーや高知な演劇場には若い階級の
人が多くてある。かくて幾分富の上下に
よって群集を区別する場合がある。これら
無し一般に都市の群集はあく中下階級
あ、中下階級あ、ゆゑ年齢に同様のである。

に寧ろ特色あり。

市民安んぜ地内生活に甘んじて居る。
いふまでもなく、地理的距離を近き為に都
心や準都心となす感も場に出掛ける。
様多し。これにはなほ相當にある。然しや
何れも市の生活は地内生活に當る。都心
や準都心に出掛けるは各片々何れも一
つ大例外である。此すいた偶然も全市より
要するは相當の混雑を要する。とある。うし
又都市に集する他地方の人には経験する。
都市生活は殆ど皆この都市心及び
準都心の範囲である。
これに對する

人の

そこに群衆をたして片々共居の目的が
何であるか甚だ明白な場をもちし物に
なる場合もある。

図書館は集まて片々人々共居に思ひ
ふれ目的は讀書する事である。まやばい

に集まて片々人の共居の目的は娛樂に
ある。けれども停車場に集まて片々人に
送る人送る人待ち合つて片々人々を

つあして片々人々で暖をとつて片々人は

目的は色んなものであるが、汽車を待つて

居る人が最も多いであらうし又外部に系

されぬ共同の目的である。都市の住民は

はそれ

その事をよく知って居る。昔々停車場に居る

まゝぶるものねの人の中には様々の因縁の

よ。よめあふよであらう。事をよく知って居る。

此處それと同じに自分の地元に時々は

地這いの生活の自分と他の人々を甘ん

て居る。日々の機械的な生活に安んじ甘ん

じて居る。よく知って居る。

都市の不意の経は盛なりを中心に生活し

群集の軌跡の内にその不意を察知して

居る。不良は信居地帯に居る人なるもの

いはなつて成す地の印象を帯びて回舎に時

々々人々とは都市と不良を察知

あつたところには当然である。都市の
住民にはそれは迷惑な話である。けれども
時々或る場に出揃って都市の住民もそんな
不便を見る
経験を欠くのであうからその地区内の
生活に於いても数戒めとなる。そんな形も
戒めな態度をもった人々を構成して居る
が、~~それ~~地区の文化が枯乾している。それ故
に私の記がなうおなじのは当然である。それ
が都市の文化である。
今迄都市の住民のパーソナリティーを形作る
要素は色々ある。人の住み方、
経済的になつて来た都市生活。成るも
一度

流俗的 人との

是れ一面的なものであり、
一面的に人間的な接觸を
おこし、都市に於ける生活の最上流
のみを為るに過ぎない。すなわち不安の要素が
おこる場合が多いのである。かくの如く不安
の結果を屢々見て来た都市の住民は人
の心理に對して疑念的となり、
然してもとを推察し、かくの如く推察する
その形成に影響するものは、
に於いては、経験不足を感ずるに
である。

贈答援助代金借の国仕

(一) 人と人の国仕が文字の命令、相互に

a. 贈答
b. 代金借
c. 援助
d. 命令

(二) 上下の国仕が命令、上より下へ

a. 贈答
b. 援助
c. 命令
d. 援助

人の力の有無に依りて(一)又は(二)が必要。

都市では(二)は公共体が行い他人間には

必要として(一)は長官の援助となり、古は

この援助を要す。

今ではこれにはなんら必要を感じてゐない。

とある。古くは経済上の社会を
(二)は行政上の社会、社会福祉の
社会である。